



お品書き

【その巻】CODEレター VOL.28
【その式】プロジェクトニュース

以上

CODE
Letter

2006.3.26 VOL.28

(特活) CODE海外災害援助市民センター発行
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-574-0702
e-mail: info@code-jp.org URL: http://www.code-jp.org/
郵便振替 : 00930-0-330579

「支える事は支えられる事」

村上忠孝
CODE理事・財務部会長

見返りの無い行い、マザーテレサの無限の愛など本当にあるのかなと思っていました。

私は今61歳です、間もなく62歳になります。

現役時代はボランティアのボの字も分かっていなかった、それが1995年1月17日午前5時46分から激変しました。丁度50歳の時でした。それから2年間被災者の住宅復興に関わりました。

そして52歳で現役を引退しました、復興には10年はかかるだろうと思いましたが、それは正直気が遠くなる時間でした。自分の人生でこんな経験は絶対にないだろう、それならトコトン復興に付き合おう、後で後悔しない復興をしようと決心しました。

2006年1月17日の室崎先生の講演の中で私の質問に「人の意識は変えられないのです」と言われていました。

私のこの11年間は正に「自分の意識は変えられるのか？」の検証であったと思います。

支える側の快感、脇役の魅力はやった者でなければ分からないだろう、これが今の現実です。あまり学識経験が無い私の考えは、異論を唱えられる事もあると思いますが、暫く我慢して付き合い下さい。

1999年にサンフランシスコのNPOの視察に行きました、その時に見たNPOとボランティア活動を見て、支える側の心構えと技術的な所を勉強する事が出来ました。

アメリカ社会はNPOとボランティアの社会基盤の上に、行政と国が乗っているのが見えました。国の形が基本的に違う日本に、アメリカ式のNPOとボランティアを持って来てても上手く行かないだろうと思いましたが、工夫次第では良い所を見習う事が出来るなと確信しました。

特に興味があったのは、タイツ財団の市民活動に必要な活動資金の集め方、次にパブリックアクセスという言論の自由

の基本的理念であるコミュニティFM放送とケーブルTVを市民活動の情報発信の手段として活用しているのが有りました。次に興味があったのがハビタットと言う住宅困窮者に、お互いに500時間の作業ボランティアを相互扶助する事で格安の住宅を手に入れる事が出来る手法でした。

現在の私のNPOとボランティア活動はこれらの延長上にあります。パブリックアクセスは「FMわいわい」「京都FM放送」「KBS京都放送」「但馬を映像で発信する会」で生かされています。ハビタットは丹波地方、但馬地方の林業グループから、国産材(杉、ヒノキ等)を格安で入手出来るルートは出来ましたが、格安の土地を入手するのは日本では無理である事が分かり、現在足踏み状態です。

最後のテーマ「市民活動の活動資金集め」が難題で、日本中、世界中のNPOとボランティア活動団体が日々苦悩している大きい問題点であるかと思えます。現在の所、活動資金集めは行政からの助成金、企業メセナからの助成金を当てにしていますが、本来は各活動団体の事業活動で稼ぐか、会費ボランティアで創出すべきものであるかと思えます。資金作りは「間断なき市民活動の中からしか得られない」と言うのが現在の私の持論になっています。

現在、阪神北地域の仲間達と「防災と減災」をテーマにつくられた「子供自由遊び広場・プレパーク」の中に地域防災訓練を組み込み、小学校区単位で防災訓練の支援をしています。その中で強い武器になっているのが「防災紙芝居」の制作と上演です。オリジナル紙芝居作品の津波がテーマの「TSUNAMI」、復興のコミュニティ作りをテーマの「コーラル・フィッシュ」が好評です。この作品は、英語、韓国語、中国語、イタリア語、タガログ語に翻訳中で、完成すれば各国の領事館、大使館を通じて、在日の外国人の「防災と減災」の訓練の貢献出来れば良いなど、懸命に製作中です。

「防災と減災紙芝居」に興味がある方は、連絡下さいね。

フィリピン・レイテ島地滑り災害について

現地時間2月17日午前10時頃、フィリピン中部のレイテ島南部のレイテ州セントバーナードで大規模な地滑りが発生しました。被災地では約150人が亡くなり、1000人以上が未だ行方不明のままと言われています。被災当時、生徒らが約250人いたとされる小学校も生存者の反応がなく、一週間後の24日には捜索の打ち切りが発表されました。

地滑りから一ヶ月が経ち、新聞やテレビなどの報道はなくなりつつありますが、現地はまだ多くの問題を抱えています。現在も2000人以上の人が避難所で生活をしており、生き残った人々はこれから住むところや生計を立てる手段を必要としています。しかし地滑りが起こった南レイテ州の人々はとても貧しく、フィリピンの79ある州の中で、3番目に貧しい州だと言われています。支援の手も少ない状況の今、復興が困難な状況が続いています。地元政府は支援金が入れば、移転のための土地を購入したいと考えているそうです。

また現地では、災害後に軍によるクーデターの計画が発覚するなど、経済的なものだけでなく、政治的な不安定さも人々の間に広まっています。こうした状況のなかで心の病も心配されており、これからのケアや支援が必要とされています。

CODEでは、フィリピン・レイテ島地滑り災害への救援募金を始めました。みなさまのご協力をお願いいたします。尚、みなさまから寄せられたご支援のうち15%を上限として、人件費などを含む事務局運営に使わせていただきます。これからは阪神・淡路大震災以降つながっているフィリピンのNGOや関係者に連絡をとりながら、さらなる情報収集に務めていきますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

郵便振替：00930 - 0 - 330579 加入者名：CODE

*通信欄に「フィリピン支援」と明記してください。

震災を語り継ぐ「留学生セミナー」開催

3月13日から18日まで、日本に留学されている外国の方を対象に行った「留学生セミナー」(研修会)を開催しました。その目的は阪神・淡路大震災とその後の市民による復興への



取り組みを知ってもらうことで、防災に対する意識向上や、開発理論、実践的な知識の習得を目標として行いました。セミナーにはスリランカやインドネシア、カンボジア、ラオス、バングラデシュといった国から6名が参加しました。まず、人と防災未来センターの見学からはじまり、長田のまちのスタディーツアーや障がい者の方への支援の現状や課題、多文化共生・地域と一体になった市民活動などを講義とフィールドワークを組み合わせ学びました。参加した留学生は事前

でも意欲的に受講していました。

CODEは神戸に事務所をおくNGOとして、震災について外国の方にも語り継ぎ、神戸の経験と知恵を役立てていただきたいと思っています。



活動記録 1/21 ~ 3/20

1月24日 神戸大学アイセック主催「キャリアデザイン研修」講演(飯塚)

1月31日~2月8日 外務省主催 住民参加型災害復興支援に関する能力強化研修に参加<インドネシア・マル州>(飯塚)

2月1日 神戸市立楠高等学校 講演(岸本)

2月2日 神戸国際観光コンベンション協会等主催「震災対策技術展 自然災害対策技術展」講演(村井)

2月9日 神戸市立楠高等学校 講演(岸本)

2月10日 県立香住高等学校 講演(飯塚)

2月17日 2月度理事会

2月10日 松蔭高校「チャレンジ学習」(飯塚)

2月22日 貿易研修センター主催の「インダストリアルツアー」で講演(村井)

2月26日 ボランティアの日(ぶどう新聞第9号発行)

3月1日~4月6日 パキスタン派遣(吉椿)

3月13日~18日 JICA兵庫委託事業による「留学生セミナー」の開催(斉藤)

3月15日 コープこうべ パキスタン報告会(村井)

3月22日~26日 パキスタン派遣(村井・岡本)

3月22日 CS放送「読売ザ・Kansai」で放映

3月26日 ボランティアの日(CODEレター28号発行)

3月29日~4月7日 アフガニスタン派遣(村井・飯塚)

ありがとうございます 1/21 ~ 3/20

会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

一般寄付

個人：川崎すゑ(兵庫) 三島宣彦、成毛典子、大倉記代、(以上東京)

団体：立正俊成会豊中教会(大阪) 神戸女学院チャプレン室(兵庫)

会員

賛助会員 個人：南輝子、塚本謙三、山田一成、杉田文夫、鈴木嶺、村田豊延、鶴飼卓、岡崎博子、宇都幸子、八十島ますみ、茂木治子、藤原ミサ子、黒瀬晴世、住野和子、井上由紀子、田所蛙治(以上兵庫) 栗原謙治(東京) 久永亨(岡山) 四良丸晴代、亘佐和子(大阪) 宇田川規夫(神奈川) 相川栄三(京都)

団体：神戸YMCA



プロジェクトニュース

・スリランカ ・カトリーナ
・イラン(バム・ザラント)

CODE海外災害援助市民センター
〒 652-0801 神戸市兵庫区中道通 2-1-10
Tel: 078-578-7744 Fax: 078-574-0702
e-mail: info@code-jp.org
URL: <http://www.code-jp.org/>

スリランカ津波復興支援 (2004年12月26日～)

「防災共育」プロジェクト

今年の1月21日に濱田久紀さんがCODE、スリランカYMCA、国連ボランティアの三者で展開する防災教育プロジェクトを地域に広めるためにスリランカに派遣されました。その2後ヶ月が経ちましたが、派遣先である南部のマータラで、防災ソング「おはしも」の普及、ハザードマップ作り、津波の民話である「いなむらの火」の読み聞かせ、お絵かきなど、子どもたちと共に学び合いながら精力的に「防災共育」を展開しています。(写真: ボランティアリーダーによる「おはしも」の歌伝授・練習)



幼稚園・保育園再建プロジェクト

CODEはスリランカで現在5軒の幼稚園の支援を行っています。1月に1軒目であるマータラの園舎が完成しました。学校には、すでに3歳から5歳の子どもたちが毎日通い、子どもたちの笑顔が戻りつつあります。他の4軒も今年度中に完成する予定です。マータラの幼稚園・保育園は、長崎県の「長崎県県民運動実行委員会」様よりご支援をいただいております。(写真: 完成したマータラのエバーシャイン幼稚園の子どもたち)



アメリカ南部ハリケーン・カトリーナ支援 (2005年9月11日～)

昨年アメリカ南部で甚大な被害を出したハリケーン・カトリーナの支援において、皆様の温かいご協力のおかげで248,383円のご寄付が寄せられました。また、CODEが販売しているホワイトバンドの売上の一部である180,000円を合わせて合計428,383円を、被災地で効果的な支援活動を行っているネットワーク団体と子ども支援の団体を支援することに決定しましたのでご報告いたします。

1. 全米災害救援ボランティア機構(以下NVOAD)

(<http://www.nvoad.org/>)

日本災害救援ボランティアネットワーク(NVNAD)を通して、NVOADを支援しました。NVOADは、1970年に設立された、アメリカのボランティア団体を調整するネットワーク団体です。現在アメリカ赤十字社など全米の39の災害NPOがメンバー団体として参加しています。そのうち33以上の団体がハリケーン・カトリーナに対して支援を行っています。

災害時は多くのボランティア団体が被災地に入り支援活動を行いますが、それらの団体を調整する機関がほとんどないため、支援の重複や支援が届いていない地域が生じることがあります。NVOADは、支援団体間の調整が不可欠な災害時や災害が発生する前から、ボランティア組織間の情報発信や関係構築を促進しています。

寄付金額: 179,600円

2. Christian Children's Fund(以下CCF)

(<http://www.christianchildrensfund.org/>)

CCFは日清戦争で強制移動させられたり、孤児になったりした中国の子どもたちを支援したことがきっかけで、1938年に設立されたアメリカのNGOです。その後、アメリカ国内外で子どもの支援を行っています。

アメリカのハリケーンにおいて、CCF緊急チームはハリケーンで被害を受けた地域の家族を支援するため、ミシシッピ州のCCFのスタッフと地元団体と共に活動をしています。ハリケーンの影響を強く受けた沿岸部は大きく報道されていますが、ミシシッピ州の中部や北部は大きな被害を受けたにも関わらず注目されていません。そこで、CCFはミシシッピ州で子どもたちへの学用品の提供、精神的サポート、放課後プログラムの実施などを行っています。

寄付金額: 248,783円

イラン北東部地震支援（2003年12月26日～）

AHKKセンターの運営

イランの北東部のバムで発生した地震の支援において、現地NGOと連携してAHKKセンター（チャイルドセンター）の運営を行っています。現在AHKKセンターでは、音楽教室、裁縫教室、織物教室、人形劇の教室が行われています。（右下写真：サイド先生の子どものための音楽教室の様子）

音楽教室では、サイド先生が子どものための音楽教室と音楽教師のための養成教室を開いています。12月にテヘランで子どもたちのコンサートが行われました。コンサートはとても盛況で、チケットはすぐに売り切れ、500人以上の観客がコンサートに来たそうです。イラン国営テレビはサイドさんたちのインタビューを放映し、新聞にも取り上げられたそうです。コンサートが行われた場所はイランでも大変有名な場所で、ここで子どもたちのコンサートが行われることは大変名誉なことらしく、CODEが継続して支援している音楽教室の成果が、バム以外の地域でも認められつつあります。



音楽教室の他にも、AHKKセンターの女性委員会のビーガンさんを中心に女性達の裁縫やタペストリーのクラスがあります。裁縫のクラスは前半が終わり、現在後半のクラスが運営されています。

その他に、AHKKセンターはSTLというトルコのNGOから人形劇の支援を受けており、4ヶ月間の訓練と3ヶ月間の公演を予定しています。現在は子どもたちのための演劇のクラスや人形作りのクラスが行われています。

イラン・ザラント地震支援（2005年2月22日～）

1年前にバムから北西 270km のケルマン州ザラントで発生した支援で、皆様から 101,324 円のご支援をいただいております。お寄せいただいた貴重なご寄付により、CODE はザラントで活動している NGO と連携して、ザラントとバムの被災者との交流事業を開催しました。（右写真：ザラント地震直後の様子）



ザラントの女性とバムの女性との交流事業は、それぞれの地域で被災した女性や子どもたちが、地震災害やそれぞれが抱えている問題など、共通のテーマについて話合う貴重な経験になりました。

第1部は、ザラントにバムの女性たち 13 人が訪れ、第2部では、ザラントの女性と子ども 40 人がバムを訪れました。彼女たちは昼に被災地やバムの歴史的な遺跡を訪れて交流し、夜には AHKK センターの音楽クラスの何人かの子どもたちが来て、彼女たちのために演奏したり歌ったりしました。夕食後、子どもたちは一緒に遊んだり、女性たちは冗談を言い合ったりおしゃべりをしたりして、2つの被災地域の女性や子どもが交流しました。



（上写真：バムの AHKK センターに訪れたザラントの人々）

ザラントで地震が発生した時、一番最初に駆けつけたのはバムの人々であったと現地で聞きました。大規模地震という悲惨な出来事で結ばれた人々の心の交流や友好は、今後とも続いていくことと思います。

その他のプロジェクト

昨年 10 月 8 日にパキスタン北東部で発生した地震の支援については、現在スタッフが現地入りしています。そこで、中長期的な支援プロジェクト決定に向けて現地調査を行っています。スタッフは 4 月に帰国いたしますので、その際に今後の支援についてご報告いたします。

プロジェクトについてご質問やご不明な点がございましたら、何なりと事務局までご連絡下さい。

最新情報はメーリングリストでも随時発信しています。ご希望の方は info@code-jp.org まで。